

## ゼロ・ウェイスト 円卓会議 会議録

部会名	ゼロ・ウェイスト円卓会議		記録者	池崎(環境モデル都市)
開催回数	第14回(今年度では8回目)			
開催日時	平成22年2月8日(月)18時30分～20時30分			
開催場所	クリーンセンター			
出席者	所属	名前	所属	名前
	熊本学園大	宮北	ごみ減量女性連絡会議	永野
	熊本学園大	藤本 延	リサイクル推進委員	桑畑
	エコタウン協議会	田中	環境対策課	岡本
	エコネットみなまた	山下	クリーンセンター	福田
	婦人会	柏木	環境モデル都市推進課	川野・池崎
			出席者 計	12 名
欠席者	水光社	廣田	市議会議員	西田・中原
	教育旅行プランニング	森山	水俣自然学校	小里
	茶生産者	松本	商工観光室	光田
	商工観光室	光田	欠席者 計	8 名
内 容	<p><b>1. 前回の確認、環境モデル都市の事業報告等</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の確認：議事録参照</li> <li>・市民講座：「学校給食から地産地消を考えよう！」</li> <li>・新家庭版ISOの完成：ISOのまちづくり円卓会議で取り組んでいた新家庭版ISO「エコダイアリー」が完成。3000部印刷し、普及を図っていく段階にある。</li> <li>・自転車市民共同利用システム：2月8日(月)から利用者カードの登録受付が始まった。システムの運用開始は2月15日。市役所とエコパーク、ふれあいセンターの市内3箇所から自転車をレンタルすることができる。市役所とエコパークは24時間、貸出・返却が可能。ふれあいセンターは開館時間のみ。</li> <li>・エコハウス：2月11日(木)に上棟式が予定されている。</li> <li>・食と農と暮らしの円卓会議：地場産アイスクリームづくりに取り組んでいる。2月24日に、メンバーでアイスクリームの試作&amp;試食会を行う予定。</li> </ul> <p><b>【質問・意見等】</b></p> <p>メンバー：市民講座では、参加市民から質問や意見等は出なかったか。給食センターでのせっけんの使用状況や、水俣産の大豆がどのくらい使用されているのかについて特に訪ねたい。</p> <p>事務局：参加した市民から、せっけんの使用について質問があった。給食センターでは、食器洗い機を使用しているが、洗剤の代わりにせっけんを使用した場合、食器洗い機にせっけんカスが詰まってしまう。そのため、食器を洗う際には、洗剤を使用しているようだ。ただし、給食で出た廃油からせっけんをつくり、職員の手洗い等に利用されている。水俣産大豆の使用量は、給食センターに確認し、改めて報告する。</p> <p>メンバー：エコハウスの土突きが行われた際に、開催日の2～3日前に子供達を集めてくれとの依頼があった。もう少し早く連絡してもらえればよかった。回覧版で案内が回ってきたのも、土突きが終わった後だった。</p> <p>メンバー：エコハウスは環境によいモデルハウスとして、よい取り組みだと思う。建築に利用される木材も、水俣のものを使用しているのか。また、家の間取りなどについても、市民に関心をもってもらいたい意味で、意見を聞く場を設けてはどうか。</p> <p>事務局：木材についても100%水俣のものを利用している。家の間取りについては、デザインコンペを行い、熊本市内の業者のものに決定された。</p> <p>進行役：ホームページの充実や、市報等を通じて、情報の提供方法について考える必要がある。市役所のロビーでも市民にすぐ見てもらえるようになるとうい。</p> <p>メンバー：環境モデル都市推進委員会の中にも、各課が入っていっしょに協議できれば。土突きの件については、市民に対して情報の出し方まで、事前にシュミレーションできていなかった。</p>			

## 内容

**2. 町田市来水報告及び、上勝町・葉山町訪問報告**

事務局：1月19日午後、広瀬さんを含めて「町田発・ゼロ・ウェイストの会」メンバー4名が水俣に来られた。1日目は、クリーンセンターでゴミ分別についての話を聞き、ゴミステーションで分別収集の見学、懇親会。2日目は、市役所でゴミについての取り組みや、ゼロ・ウェイストについての話をした。

町田市は人口40万人もの大きな都市。ZW宣言に向けて、取り組みを進めている。今回は、町田市の取り組みについてはあまり聞けなかったが、資料等をいただくことができた。

環対：町田市の訪問記が町田発・ゼロ・ウェイストの会のホームページで紹介されている。

進行役：外部への働きかけも連携して行っていきましょうという確認もできた。

メンバー：上勝町の取り組みについては、以前少しお話したので、葉山町の取り組みを中心に報告したい。葉山町は、別荘の開発によってできた町。川や谷、棚田、農村等があり、水俣の地形と似ているところがある。

ゴミの分別や処理について考え始めたのはここ数年で、ゴミは可燃物と不燃物の2つに大別され、不燃物の中に、埋め立てと資源物の分類がある。ゴミステーションは、水俣と同様に道端に設置されている。ゴミ出しルール違反でだされたものには、シールが貼られる。

役所の中には、ゴミについての展示があり、不要になった傘で傘入れがつくって置いてある。ゴミっぺらし通信は、公募市民と市職員でつくられている。公募は、ホームページで呼び掛けられ、人口3万人のうち13人が集まった。月に2～3回会議を行っており、ゴミっぺらし通信も6回発行されている。住民による住民に向けた通信で、自分たちが読みやすいものをつくらせている。PDF形式で、葉山町ホームページからもダウンロードできる。

葉山町では生ゴミコンポストへの補助も行っている。その一つの「くるくる」は、200世帯でモニターも行われた。また、ゴミの半減を目標にした分別体験モニター事業も行われている。これは、葉山町から出る一人あたりのごみの量(1日分)を算出し、ゴミを分別して出せば、ちょうど入るサイズのごみ袋を配って使ってもらおうというもの。この結果のダイジェスト版が、ゴミっぺらし通信でも紹介されている。

上勝町では、ゴミの34分別が行われている。ゴミの収集は行っておらず、住民が自分でゴミを持っていき、そこで分別して出す。

くるくるショップには、1.7tのものが出店され、そのうち1.2Tがお持ち帰りされているようだ。くるくる工房では、シルバー人材さんのリメイクが行われている。

今後、連携を図っていくとなると、葉山町ではゴミっぺらし通信を発行しているところ、上勝町ではゼロ・ウェイストアカデミーになっていくのではないかな。

環対：葉山町には熱心な方が多い印象を受けたが、町民全体の意識はどうだったか？

メンバー：水俣市も同じだが、見える人だけが熱心という感じ。ただ、葉山は生活の階層が同じくらいなので、取り組みが広がれば一気に広がるのではないかな。いま、ゴミっぺらし通信をつくらせているような人たちを始めとして、市民が育ち始めているといえるのではないかな。

メンバー：ゴミっぺらし通信の配布方法はどうなっているのか？

メンバー：役場や公民館などに置いてあり、自由に取っていけるようになっている。市のホームページからもダウンロードできる。多くの人に読んでもらうために直接配ったりもしているようだ。

進行役：5月に大木町である「ちっこ会議」で、ゼロ・ウェイストをテーマにした分科会も開催される。そこでも連携をとっていければ。

**3. 円卓会議の推進体制について**

事務局：先日、円卓会議の推進体制について、宮北先生、藤本さんと打ち合わせをしたので、簡単に報告したい。

昨年5月に円卓会議が発足してやがて一年になる。本当に必要なメンバーに参加してもらえているのか、確認する必要がある。出席していない人については、代理の人を出してもらう等の対応をお願いする、検討内容に応じて新たに必要の人がいれば、会議に出席してもらうなど。

また、各円卓会議で、会議の運営方法も異なっている。このことについても、意見をいただきたい。

ゼロ・ウェイスト円卓会議については、特に、ゼロ・ウェイストへの道で示されている行動計画の内容を、より具体的につめていく必要がある。

進行役：短期的な取り組みとしては、①ゼロ・ウェイスト宣言を知ってもらうためのリーフレットの作成や、②ゴミステーション調査、③給茶スポットなどがある。

これらについては、他の円卓会議と重なる部分があるので、①については、ゼロ・ウェイストと環境学習円卓会議、②はゼロ・ウェイストとISOのまちづくり円卓会議、③はゼロ・ウェイストと食と農と暮らし円卓会議で、それぞれの円卓会議の代表と公募市民で取り組んではどうか、といったことも議論した。

①のゼロ・ウェイスト宣言のリーフレット作成は、環境学習の円卓会議といっしょにできるだろう。

メンバー：できると思う。環境学習円卓会議では、子ども用として、小学校高学年向けと低学年向け

<p>内 容</p>	<p>メンバー：に分けて作成してはどうか、といった意見も出ている。          ごみっぺらし通信のようなものも、今後必要になってくるのではないかと。          メンバー：昨年5月に円卓会議の全体会議はあったが、中間報告等はしないのか。          円卓会議間の情報の共有化の部分不足しているのではないかと。          事務局：円卓会議が設立されて1年になる5月ごろに、全体での中間報告会を開催したいと考えている。          メンバー：いまはまだ、積極的に“知りたい”と思わなければ情報が得られない。横のつながりがもっと出来てくれば良いと思う。他の円卓会議から影響を受けることもあるだろうし、自分たちの活動の位置づけもできる。          進行役：円卓会議のメンバーでも、希望者は環境モデル都市推進委員会に出席してもいい、としたらどうか。          メンバー：いま、参加できる/できないの差と円卓会議間の差の2つがある。その解決策の1つとして、具体的なテーマを設定した作業部会を設立してはどうか、と考えている。          関係する円卓会議から希望者に出席してもらい、そこで作業や活動を通して情報の共有化や連携が図れないだろうか。          メンバー：ゼロ・ウェイストを具体的に実行していくためには、環境学習が重要だと考えている。作業部会でももう少し掘り下げて、ごみステーション調査などに取り組んでいきたい。          クリーンセンター：もえるものの組成調査をこのメンバーでするのはどうか。ゼロ・ウェイスト実現のためには、もえるものをゼロにする必要がある。みんなでやってみれば、いい案が浮かぶのではないかと。          メンバー：いまは、もえるものの中に新聞紙等の資源になるものも入っている。これは、出せない人がいるから。取り組んだことをきちんとまとめて報告することで、興味を持ってもらうこともできる。          進行役：他の円卓会議からも参加してもらってはどうか。          メンバー：市民を巻き込んでいく方法として、“市民の側を主催者にする”という話があった。そのようにしていければ。</p>
	<p><b>4. 給茶スポットについて</b></p> <p>メンバー：水俣はもともとお茶の産地だが、あまりそのことが知られていないので、水俣茶をブランドにしていきたい。そこで、水俣出身のデザイナーさんに依頼して、水俣茶のロゴを作成してもらっている。“自然栽培”をウリにして、水俣茶全体の底上げを図っていきたい。今後は、パンフやリーフレット等もつくっていきたくて考えている。ステーション調査や作業部会のイメージも含めて、次回の円卓会議で提案したい。          事務局：円卓会議関係の予算として、ゼロ・ウェイストのパンフレット作成のための印刷費、給茶スポット宣伝用のぼりを申請し、印刷費については内示をもらっている。のぼりは6月補正に先送りされている状況。臨時職員も4月からの採用で、内示をもらっている。</p> <p><b>5. その他</b></p> <p>進行役：フェスタ前に話があったが、市長とこの円卓会議との懇談会の場を設けてもらいたい。          クリーンセンター：廃食油の回収をモデルケースとして実施していたが、来年度から全域で実施したい。年間7～8トンくらい回収されると見込んでいる。</p>
<p>次回の日程</p>	<p>3月17日(水) 18時半～ @クリーンセンター          ※3月15日(月) 午前9時～夕方 燃えるものの組成調査(一部参加のみも可能)。</p>